

## 「盛岡地区かわまちづくり事業」について

平成 21 年 2 月 16 日

商 工 観 光 部  
都 市 整 備 部

### 1 「かわまちづくり」の定義

「かわまちづくり」とは、河川空間とまちの空間を融合が図られた、良好な空間形成を目指す取り組みをいう。

### 2 かわまちづくり事業の目的

河川空間を観光アクセスや賑わいの創出の場として利活用が図られる取り組みを行う。

- ・盛岡市が進めるまちづくり（観光推進計画、お城を中心としたまちづくり計画、中心市街地活性化基本計画など）とかわまちづくりの連携を図る。
- ・貴重な観光資源として中心市街地を流れる北上川・中津川の河川環境や歴史的建造物などを活用したまちの演出を検討する。
- ・観光のつながりを考慮した回遊性に富む、歩いて楽しいまちづくりの推進を図る。
- ・河川管理者が行う水辺整備（ハード施策整備）と連携し、賑わいの創出や観光アクセス向上につながる周辺整備を推進する。

### 3 これまでの経過

国土交通省では、これまでの河川モデル事業の総点検を実施し、平成 21 年度より、地域の景観、歴史、文化及び観光という「資源」や地域の創意としての「知恵」を活かし、地方公共団体や地元住民等とが連携し、水辺の整備・利活用を図る河川を支援するための「かわまちづくり支援制度」を施行予定である。

盛岡市においては、北上川・中津川が、市街地を流れる川でありながら豊かで美しい自然を有し、石積護岸が街の景観を形づくっており、盛岡市のシンボルとして、貴重な観光資源にもなっていることから、観光客に対する利便性向上やさらなる水辺利用の促進を目指し、国土交通省、市民団体等と連携し、まちづくりと一体的な整備・利活用を図るため、積極的に支援制度を活用することとする。

### 4 「盛岡地区かわまちづくり事業」の概要

- 【事業の箇所】 北上川：L=2.4km（明治橋～夕顔瀬橋）  
中津川：L=3.4km（三川合流点～中津川橋）

【事業期間】 平成 21 年度から 26 年度までの 6 ヶ年で予定

【関連計画】 盛岡市総合計画，盛岡市観光推進計画，盛岡ブランド推進計画，盛岡市中心市街地活性化基本計画，緑の基本計画，お城を中心としたまちづくり計画（案）（策定中）

【支援整備内容】

○散策路を観光アクセスに活用するための整備

- ・ 散策路の未整備箇所と水辺への散策路の新規設置
- ・ 観光客に河川の散策路利用向上を図るための橋の説明板や誘導サインの設置
- ・ 水辺や散策路へのアクセス向上のための緩傾斜坂路設置
- ・ まちなかの観光施設や散策ルート等（「歩いて楽しむまち盛岡」参照）へのアクセス性の向上

○水辺空間の利活用を促進するための整備

- ・ 中の橋下流河川敷で親水を目的とした護岸の設置
- ・ 水辺を利用する観光客の休憩や賑わいの場の検討と整備

5 市民団体等との連携

計画の策定にあたっては，河川管理者だけでなく，関係する市民団体等の意見の集約を図り，地域の創意としての「知恵」を取り入れるとともに，事業の推進にあたっては，懇談会を設置し，行政や地元住民等とが連携した水辺の整備・利活用を図ることとする。

6 かわまちづくり支援制度の認定について

「かわまちづくり」の認定を受けようとする市町村等は，河川管理者と共同で「かわまちづくり計画」の策定を行う。

また，市町村等の長は，河川管理者と共同で「かわまちづくり」計画を策定した場合は，国土交通省地方整備局長等を経由して，河川局長に「かわまちづくり」支援制度の認定を申請する。

7 今後のスケジュール

平成 21 年 3 月	関係市民団体等と意見交換会の開催
4 月下旬	かわまちづくり計画書認定申請
5 月下旬	かわまちづくり懇談会（準備会）設置（予定） （事務局：国土交通省，盛岡市）



# 盛岡地区かわまちづくり事業(案)(概要版)

至宮古

## 事業の概要

盛岡市は、北上川・中津川の合流点に位置した丘陵地を利用して1597年に築かれた盛岡南部藩志の居城(盛岡城)を中心に城下町として栄え、現在の盛岡市都心部へと変遷を辿る。今日では、「盛岡城跡公園」と「中津川」を中心に歴史的建造物や史跡が多く存在し、また新渡戸稲造、平民宰相といわれた原敬、歌人の石川啄木といった偉人達のゆかりの地として多くの足跡が残っている。また、都市化する反面、市内中心部を流れる北上川、中津川には多くの自然が残し、これまでの散策路整備により市民の間では憩いの場や通勤通学など多く利用され、また河川の自然・石積景観が市中心部の顔となる景観を形成している。

当地は昨年、連続テレビドラマの舞台にもなり、東北新幹線で東京から約150分、仙台から約50分という利便性の良さもあり、北上川・中津川を観光資源として活用する機運が高まっているが、盛岡市街地に訪れる年間約470万人の観光客が利用できるような案内表示やアクセスが整備に至っていない。

そのため、盛岡の玄関口である盛岡駅から盛岡市街地までの水辺空間を活用した観光アクセス・案内整備による利便性向上、またオープンスペースの整備による利活用や観光客の利用向上のための整備を実施するものである。

【ドラマの概要】  
 タイトル:「どんと晴れ」  
 放映期間:H19.4~9月の全26週156回を全国放映  
 あらすじ:岩手県盛岡市を舞台に、名門旅館に飛び込んだ都会育ちのヒロインが、伝統と格式の前で孤軍奮闘しながら成長していく様を爽やかに描いた。



**盛岡三大麺**

盛岡市内にある三大麺のお店は、全部で約50店舗立ち並んでいる。また平成18年度の総務省がとりまとめた「中華麺消費量が全国の県庁所在地で一位」になるほど「麺のまち」として全国的知名度が高い。



平成16~17年の入込客増は平成16年に放映された大河ドラマ「義経」の効果による。今回、平成19年放映の連続ドラマ「どんと晴れ」効果により平成19~20年も入込客増の見込みであり、平成21年以降も入込客の定着が期待される。

至青森



「盛岡さんさ踊り」(入込客数約80万人)  
 8月1~4日に行われ、東北五大祭りのひとつ



新婚の啄木がに暮らした家(明治38年)、武家屋敷としても貴重。随筆「我が四畳半」にはこの頃の事が執筆されている。



開運橋から眺める北上川と岩手山は絶景であり、市民の憩いの場としても利用され、盛岡を代表する景観の一つである。

寛永10年(1633)に完成し、今も残る石垣は会津、白河とともに東北三名城の1つに数えられる。また、秋から冬の夜はライトアップされる。

樹齢350年とも言われるエドヒガンザクラ。国の天然記念物。

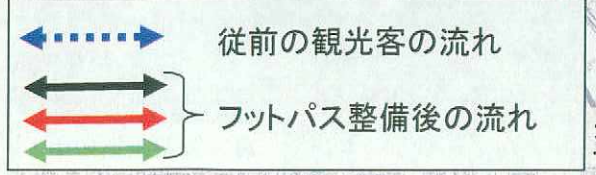


上の橋 擬宝珠(国指定重要芸術品)

石割桜 ●岩手県庁

岩手銀行 中ノ橋支店

盛岡市中心部を流れる中津川は石積護岸の景観を保ち、周辺の歴史的建造物とあわせ、城下町風情を味わうことができる。



新渡戸稲造は文久2年(1862年)、盛岡に生まれ、「武士道」等の著作が有名。



盛岡八幡宮

かつて城下町鎮護のためにおかれた南部家の氏神で、県下一の大社。境内には戦時中、首相や海軍大臣を務めた米内光政の銅像がある。



明治14年(1911)に建てられた旧盛岡銀行で国の重要文化財。赤いレンガ造りの美しい外觀が目を引き、ライトアップされると、一段と鮮やかである。

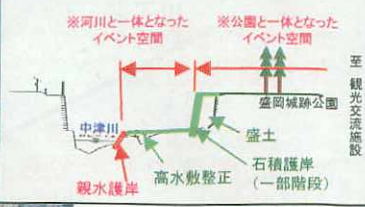
至仙台



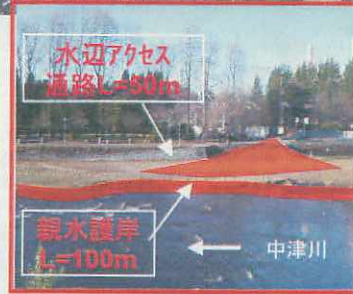


中の橋下流高水敷

広場整備イメージ(賑わいの場の創出)



**かわまちづくりのエリア**  
 北上川:L=2.4km (明治橋~夕顔瀬橋)  
 中津川:L=3.4km (合流点~中津川橋)



中の橋下流整備イメージ



橋梁を目前にフットパス沿いに案内看板を設置

**案内標示板**

**案内板イメージ**

- マップ
- ルート案内 次の橋までの案内
- 橋の説明
- QRコード

案内板

河川管理者と市が連携し、QRコード等を活用して、散策マップや、近隣の情報を提供する。